# 自由南アフリカの声

# Voice of Free South Africa

2012 年２月

No. 58

～１冊の本が人生を変える～

発行 ／ アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

## ２０１２年２月までの報告

- ■ 9月　南アへ本12798冊、サッカーボール751個、算数セット52個などを送付
- ■ 9月～2月　南アにて図書・学校菜園・サッカーボール支援活動など
- ■ 10月10日　TAAA 活動報告会（東京にて）
- ■ 9月～2月　インターナショナルスクールなどから英語の本引取りと再梱包作業
- ■ 11月12～13日　アフリカンフェスタに出展（横浜にて）
- ■ 1月　TAAA 活動報告会（さいたま市にて）

目次

■ 進行中プロジェクト報告　（平林薫）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
■ 地図/TAAA プロジェクト実施地域（鯨井幸一）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
■ サーフィンで子供たちに希望と誇りを！（サンディーレ・ムカディ）・・・・・・・・・・・・・6
■ 新会員自己紹介（横山礼）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
■ 詩/世界をいやして（ザネレ・ムゾベ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
■ カンボジアの子供たちとのサッカー交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
■ 石巻より（佐藤誠/浅見克則））・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
■ 主な活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
■ 寄付をして下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

**黒人初の快挙！ウムズンベのシモ君（14）がサーフィン南ア代表チームの補欠メンバーに選ばれる**　（撮影：平林薫）

# ～進行中のプロジェクト報告～

南ア事務所　平林　薫

ひらがなの本を見る子供　ムナフ小

**南アの状況**

私は南アフリカに住んで今年で 15 年になります。南アは“一つの国に世界がある”と言われるように、行く先々で多様な自然、民族とその文化に出会えます。こんなに魅力的な国は世界中見ても他にない、と私は思っています。しかし、南アフリカにはまだまだいろいろな場面でアパルトヘイトの痕跡が残っており、特に人々の心に深く刻まれた傷が癒えるのには本当に長い時間がかかるでしょう。そして近年はグローバル化の流れの中、経済格差はますます大きくなり、大多数の人々は厳しい状況に追い詰められています。我慢の限界から生活改善を求めて起こしたデモが過激になり、それを鎮圧する機動隊の姿にアパルトヘイト時代が思い起こされ衝撃を受けます。

TAAA の活動は遠く南アの地で行われていますが、南アの抱える問題は南アだけのものではありません。私たちが支援できること、そして私たちが南アの社会や人々から学ぶこと、双方向です。アフリカの社会にはいつもコミュニティーでの支え合いがありました。子供は地域の宝であり“地域みんなで育てていく”というような意識が、残念なことにだんだん薄れてきています。活動を通して現地の人たちと“助け合う心”“分かち合う心”をつなげていけたらと思っています。

南アの現状を伝える統計をご紹介します（マーキュリー紙）。

・現在、約 5000 万人の人口のうち 1500 万人が何らかの社会保障で生活しており、今後、受給人口の増加が見込まれる。
・就労人口の６０%は全く仕事についていない状態である。
・総人口の半数（約 2500 万人）が国の収入のたった８%で生活している。
・労働者人口の４４%が 1 日 10 ランド（約 100 円）以下で生活している。

このような状況は犯罪の引き金となります。簡単に高額が稼げる“麻薬”に絡んだ問題は後を絶ちません。“ドラッグミュール”と呼ばれる運び屋が世界各国で摘発されており、先日、中国でダーバン出身の女性が死刑となりました。また、詐欺事件や金銭目的の殺人など、人間の欲望の恐ろしさを知らされる事件が頻発しています。そのたびにジョハネスバーグのストリートに住んでいた少年エルビス君の“僕が神様だったらお金をなくすんだ。お金がいつも問題を起こすのだから”という言葉を思い出します。

もちろん、私たちは仕事をしてお金をもらって生きていかなければなりません。南アでの失業率の高さは統計にも表れていますが、特に若者の失業問題が深刻です。現在南アでは 18－24 歳の 300 万人が何もしていない状態で、その数は年々増加しています。高等教育省大臣ブレード・ンジマンデ氏がサンデートリビューン紙のインタビューで、“高校卒業者もしくは中退した若者たちのスキル習得が最重要課題である”と話していました。職業訓練に関しては教育省と労働省が関わるため、これまでシステムに混乱もあり、汚職も絶えませんでした。FET カレッジという職業訓練校がありますが、コースを修了しても見習いとして雇ってもらえる機会が少ないという問題もあり、企業側の理解とサポートも求められています。現状では総合大学の学生 3 に対し、職業訓練校の学生は１という比率で、スキルのある人材が求められている今、この比率を逆にしなければならないと訴えています。

**JICA 草の根技術協力事業“学校を拠点とした地域農業促進プロジェクト”**

２０１０年７月から始まったプロジェクトはいよいよ最終年に入りました。活動はクワズールーナタール州・ウグ郡内３地域の３０校および各地域のコミュニティーグループと行っています。同じ郡内でも３地域には大きな環境の差があり、活動の進捗にも影響が出ています。郡内他地域より乾燥気味で、近くに川もないため灌漑用水確保が難しいドゥドゥドゥ地域。山間部で町から遠く、アクセスしづらいことから様々なリソースが乏しいプンガシェ地域では土地の多くは家畜の放牧に使われています。沿岸部で比較的雨量が多いヒバディーン地域は周辺にサトウキビ畑が広がり、人々がある程度農業に関わってきました。

学校での菜園活動は、教師や生徒が農業の基礎的な知識や技術を学び、実践することを目的としています。それが農業に対する意識の改革にもつながり、農業は“大農場で行うもの”“体罰”“おばあちゃんの仕事”というようなイメージを払拭し、自信を持って畑仕事ができるようになることを目指しています。活動によって収穫の喜びを経験し、将来農業を仕事にしたいという生徒が出てくることを願っています。

教師を対象とした研修会を 3 地域の中心となる学校において、10 月 25 日にヒバディーン、27 日にプンガシェ、11 月 1 日にドゥドゥドゥで開催しました。研修では各校の写真を掲示して意見交換を行いながら、活動の進捗報告と反省をしました。たい肥を作りながら作物を育てる苗床（ピットベッド）の実習（**写真右**）や、担当教師の活動記録用のノートと夏の作物の種を配布しました。

また、10 月 5－6 日に農業専門家リチャード・ヘイグ氏のエナレニ農場においてトレーニング研修を開催し、学校巡回指導員 2 名と現地調整員 1 名が参加して“農業はまず土壌から”という有機農業の基礎知識や、様々な実習を通して有機農法を学びました。研修はスタッフ間の結束を深める役割を果たし、またヘイグ氏の農業への情熱に触発され、スタッフのモチベーションも高まったように感じられます。

前期に行った“菜園と栄養”に関する詩と絵のコンテストへの応募作品を、スタッフやプンガシェ教育センターのドラミニ所長らと審査し、優秀校、優秀者への表彰を行いました。ヒバディーン地域のムタルメ小では熱意ある担当教師の指導の下、生徒たちが自信を持って菜園活動を行っています。コンテストにもたくさんの応募があり、優秀作品にはノート、鉛筆などの文房具を、最優秀賞には果樹を贈呈しました。また、畑仕事は熱心に行っているが、詩や絵は苦手という 2 名にもオレンジの木を贈ったところ、1 月から高校に進学する男子生徒は“高校に行っても畑仕事を続けるし、オレンジの木も大切に育てます”とうれしそうでした。彼は将来、地域の若いファーマーとして活躍してくれるのではないかと楽しみです。

12 月 7 日にムタルメ小学校の菜園クラブメンバー（6, 7 年生の 15 名）、校長、教頭、担当教師、学校の敷地内で畑作りしている保護者 2 名がエナレニ農場を訪問して研修を受けました。農場滞在中のイタリア人のスローフード推進メンバーも研修を視察し、地産地消を目指すスローフードの取り組みについて話を聞くこともできました。高校の菜園クラブメンバーを対象として前期より開始した農場訪問ですが、実際にとうもろこしを挽くことや、パンやジュースの手作り、伝統牛や羊の飼育の様子や有機農法での様々な野菜作りの視察など、小学校高学年でも楽しみながら学べるプログラムであることを確信しました。

今期は各校でタマネギがよく収穫でき、保存がきくことから給食で十分に利用し、販売もできました。ロゼッテンヴィル小のタマネギを購入しましたが、子供の頭ほどに大きく成長したものもあり、甘くて“これまでに食べたことのないほど”おいしかったです。日本から持参したダイコンの種を育ててくれた学校で収穫があり、今期はダイコン料理が豊富に食べられました。土壌や水の違いのためか、味はかなり辛みが強く、ちょっとくせがあります。ダーバンの日本料理店にも持って行ったところ、購入してもらえました。

ヒバディーン地域のインプメレロ小でも活発に活動が行われており、7 年生の女子生徒ザネレ・ムゾベさんは“Let’s heal the world”という詩を書いて“土壌、自然を守ろう”と訴え、コンテスト全体の最優秀賞に選ばれました。学校は 12 月中旬から夏休みに入りましたが、インプメレロ小では週 1 回担当教師と菜園クラブメンバーが学校に来て畑の世話をしています。各校では近くに住む生徒や保護者、教師など担当者を決めて休暇中も菜園の世話を行っていますが、特に夏は雨が多く、雑草の伸びも早いため、休暇中の活動次第で休暇明けの畑の状態に大きな差が出てきます。今期は研修会で指導したピットベッドなどを利用して豆類など夏の作物の栽培を開始しました。また、かぼちゃの大きさを競う“かぼちゃコンテスト”も開催中。来期の収穫後に優勝校を決定します。

ヒバディーン地域農業グループは、今年はバターナッツの作付け時期を少し早めたことから、11 月末の大雨にも収穫への影響を最小

限に抑えることができ、昨年度のような被害をまぬがれて、収穫の販売を行っています。ただ、雨量がかなり多かったため、トマトやピーマンなどの収穫の一部が水浸しになってしまいました。近年、雨の降り方が激しく、時期もずれてきているなど、地域住民は気候変動を感じており、ちょうどこの時期ダーバンでCOP17が開催されていたことから、メンバーが畑でNHKのインタビューを受けました。

灌漑用水の確保が難しいなどの問題により、活動が十分に進んでいなかったドゥドゥドゥ地域のゼンベニ小の校長と話し合いを持ちました。校長は活動を継続したい意向を持っていましたが、現在の状況で担当教師に無理強いはできないとのことから、プロジェクトからの離脱を決定し、農具を返却しました（一部破損や紛失）。現在２校（小学校１校、高校１校）から新規参加の希望を受けて準備を進めており、返却された農具は、新規参加校に配布します。来期は活動をより前進させていくこと、何らかの問題で活動が進まない、もしくは継続が難しいと判断された場合、農具の返却と活動からの離脱の可能性もあることを各校に書面で伝えることにしています。

前回ンドウェドウェ地域で学校菜園プロジェクトを行ったムチャトゥ小から、ダイコンの収穫に来て欲しいと連絡が入りました。ムチャトゥ小では菜園活動が継続されており、ホウレン草、タマネギ、赤カブ、ピーマンなどを育て、給食に利用したり、地域住民に販売したりしています。ンドウェドウェの学校に菜園活動が定着し、継続されていること、また活動終了後も連絡を取り合えることを大変うれしく思っています。

## ひろしま祈りの石国際教育交流財団“学校図書支援プロジェクト”

ウムシンシニ小へ本の寄贈

ヒバディーン地域・ドゥドゥドゥ地域の２０校を移動図書館バスで巡回訪問しています。学校訪問は基本的に１学期に２回、貸出しと返却としていますが、教師や生徒のリクエストには柔軟に対応するよう心がけています。12 月中旬から１月にかけての夏休み（クリスマス休暇）は長期で、その間、本を読む機会が全くない生徒が多いため、2 回目の訪問時にも貸出しを行いました。その際、生徒が家庭に本を持ち帰ることから、担当教師は生徒の氏名と書籍名をノートに記入して管理し、生徒にも本を大切に扱うよう改めて指導しました。

前期には教師のみが移動図書館を利用した学校の中に、校内でシステム作りを行い、今期から生徒も借りることができるようになった学校もありました。ただ、生徒数の多い学校では 1 度に全校生徒への貸出しを行うことは難しいため、クラス単位、もしくは学年単位で順番に利用しています。そのような状況からも学校図書室の早急な設置が望まれています。

TAAA 南ア事務所のあるヒバディーンは小さい町で、図書館も本屋もないため、地域住民もなかなか本にアクセスできません。移動図書館車の給油を行っているガソリンスタンドのスタッフから本を借りたいとの依頼があり、貸出しを開始しました。また、学校訪問の際に、学校内で菓子や果物を販売する地域住民への貸出しも行っています。今後も可能な範囲で地域住民への読書の機会を設けたいと考えています。

移動図書館車には日本についての本、日本語の本も搭載しており、興味を示す生徒がいます。広島の原爆の体験がつづられた“忘れられないあの日”を手にした生徒、日本語の本を読んだ後、私が訪問した際に“こんにちは！”と挨拶してくれた生徒もいました。子供たちの知識と想像力を高める“本の力”を改めて実感しています。特にリソースの乏しいこの地域では、“1 冊の本”が子供たちに与える力は大変大きく、活動を通して一人でも多くの子に本を手に取る喜びを体験させてあげたいと思っています。

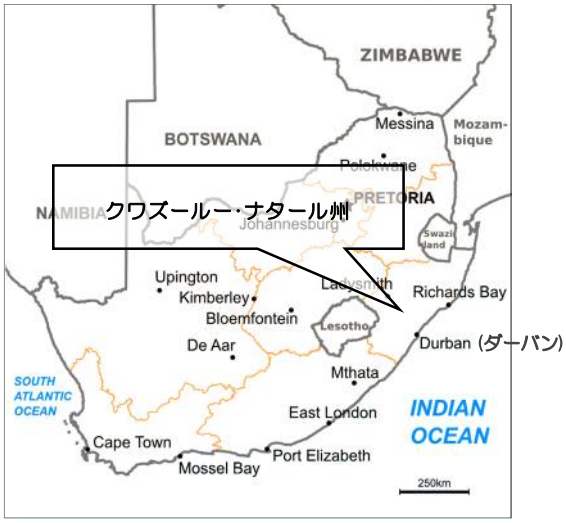
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（写真右）TAAAが送ったサッカーボールも大人気です。体操服がなく、制服のままサッカーをしています。

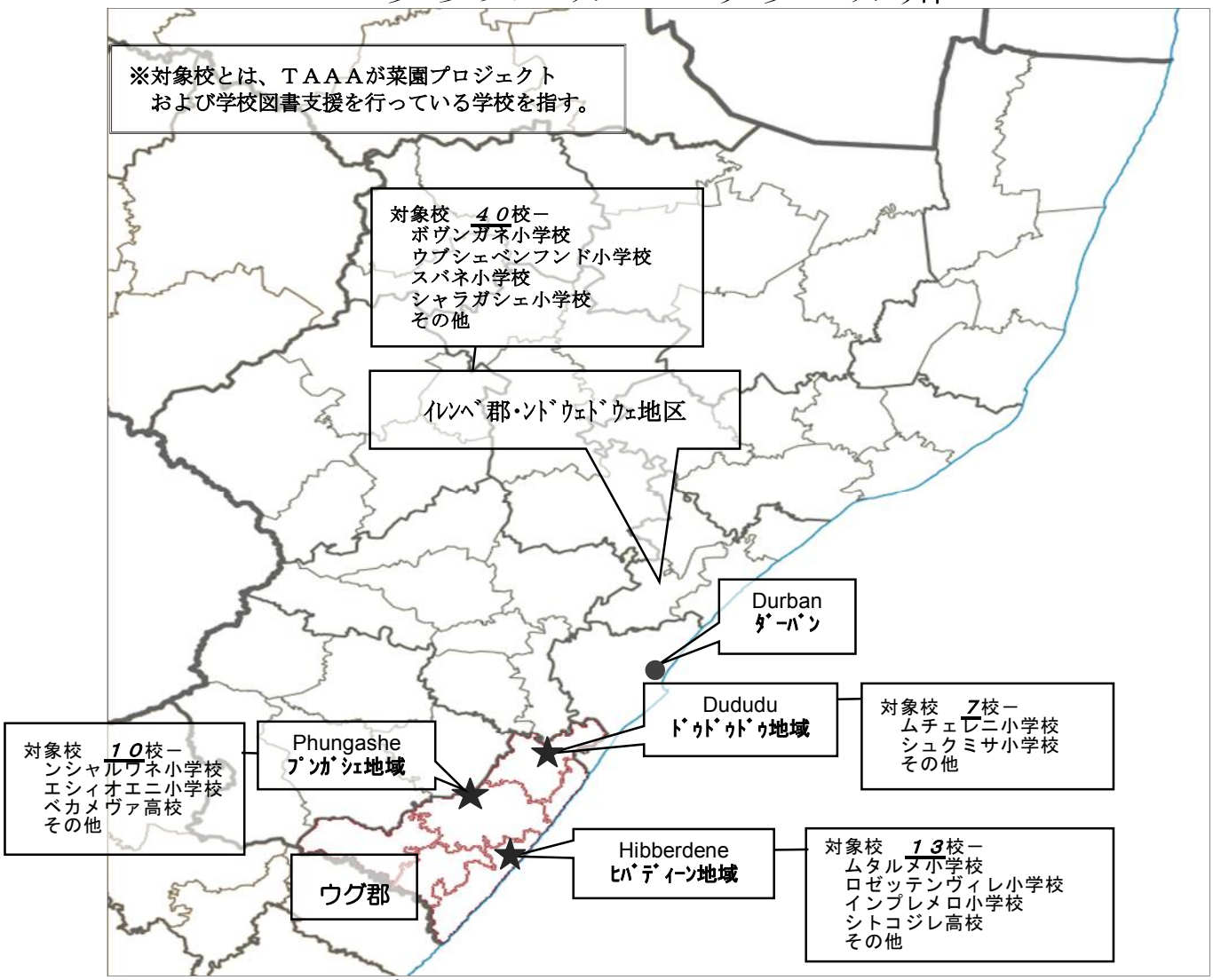
# ＴＡＡＡプロジェクト実施地域（★）

アフリカ全図

南アフリカ共和国




クワズールー・ナタール州




**現在(2012.1)実施中のＴＡＡＡプロジェクト**

◎ＪＩＣＡの草の根技術協力事業『南アフリカ共和国・学校を拠点とした地域農業推進プロジェクト』（ウグ郡プンガシェ・ドゥドゥドゥ・ヒバディーン）2010 年 7 月～2012 年 12 月

◎財団法人ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成による事業『南アフリカ共和国･クワズールー･ナタール州を中心とした学校図書支援活動』（ウグ郡）2011 年 4 月～2012 年 3 月

**2011 年 3 月で、終了したＴＡＡＡプロジェクト**

◎国際ボランティア貯金寄附金による事業『基礎教育支援のための図書配布、本棚・コンテナー図書室の配備』（イレンベ郡ンドウェドウェ地域）2010 年 4 月～2011 年 3 月



資料作成：鯨井　幸一

TAAA は、1 月 8 日（日）に報告会をしました。今回のゲスト講師は、来日した南アＮＧＯ「ウムトンボ(Umthombo)」職員で子供たちにサーフィンを教えているサンディーレ・ムカディ氏でした。ダーバンのストリートにいる子供たちへ日頃の支援活動について講演してくれました。(久我祐子　編)

# サーフィンで子供たちに希望と誇りを！

**サーフィンコーチ・ジャッジ**

**サンディーレ・ムカディ（写真：左）**

こんにちは。今日本は寒いけれど、日本人の皆さんの心が温かいので、私はとても暖かい気持ちでいます。私はダーバンにある NGO「ウムトンボ」で働いています。「ウムトンボ」は、ストリートチルドレンを保護して支援をする団体で、身心のケアをして、様々なアクティビティを通して子供たちを矯正し、少しずつ家庭や学校に戻す活動をしています。

活動内容をお話する前に、皆さんに伝えたいことがあります。それは、「ストリート・チルドレンという子供は存在しない」ということです。元々ストリートに生まれ住んでいるという特殊な子供はいません。彼らは私達と全く同じ人間です。一人一人が様々な問題を抱えてやむを得ずにストリートにいる子供たちです。彼らは Kids from Street　ではあっても Street Kids ではありません。

ウムトンボは現在約 50 人の子供達を支援しています。年齢は 9 歳からハイティーンまでです。ハイティーンは何もすることがなくストリートにいると一番犯罪に巻き込まれやすいので、年齢制限は設けずに、彼らを受け容れています。ウムトンボ・センターでは、ストリートにいる子供たちを保護し泊まらせています。歯磨きなどの身支度を教え、子供達には不人気ですがオートミールなどの健康的な食事を提供し、ソーシャルワーカーを常駐させ世話をしていますが、それでも束縛をきらい、ストリートにもどってしまう子供もいます。また、アート、サッカー、サーフィン、ダンスなど様々なアクティビティを用意しています。子供たちが何もすることがなく、ストリートでうろうろさせるのは危険で良くないことだからです。

アクティビティの中で一番人気があるのが、サーフィンです。
サーフィンをする日は、午前中は９：００～１２：００、午後は３：００～５：００とびっしりやります。子供たちがストリートに戻らないように、なるべく長くビーチにいさせることが大切なのです。サーフィンからは学ぶことが多くて、サーフィンを通して、子供たちは少しずつ変わっていきます。ストリートにいた時分は、夢もなくその日暮らしの生活だった子供たちが、サーフィンをやるようになると、自分の将来のことを考えるようになります。

私は 2008 年からウムトンボでサーフィンを教えていますが、少しずつ活動の成果が出てきています。最初の教え子のうち 2 人がビーチでのライフガードの職を得ました。ケープタウンでサーフィンの試合がありましたが、ウムトンボから参加した 5 人の子供が、サーフィン協会から奨学金をもらい学校に戻りました。

ストリートにはシンナーを吸う子供が多いのですが、シンナー漬けの毎日をおくっていた少年が、ウムトンボに来てサーフィンをやるようになって見違えるほど健康になりました。かといって、彼がシンナーを完全にやめた

わけではありません。一旦シンナーを吸うようになると、断ち切るのはとても難しいのです。シンナーについては、売る人がいる限り、吸う子供が出てくるので、子供たちを責める前に先ずおおもとの大人たちが売ることを止めてほしいと思います。

ストリートチルドレンの生活は過酷です。彼らには縄張りがあって、子供同士は名前ではなく、縄張りに関連した番号で呼び合っています。それぞれの縄張りにはボスがいて、縄張り争いで刺殺にいたるケースもあります。またストリートにいる男の子が女の子を妊娠させてしまい、新生児の死体がゴミ箱に捨てられていたこともありました。犯罪も多発しています。しかし、サーフィンをやっている子供が犯罪に関わるケースは非常に少ないのです。

ダーバンで国際会議が開かれる期間は、政府としてはストリートに子供がうろうろされていたら困るので、急に警察の取り締まりが厳しくなり、その期間中だけは、子供たちを保護するためではなく排除したいがために、別の場所へ連れて行きます。この前開かれたＣＯＰ１７の時もそうでした。

私達は、サーフィンをやっている子供たちの自尊心を育てるために、賞状やメダルをあげる機会をできるだけ多くしています。彼らが家や学校に戻ったときに賞状があると、「やっかいな子供」としてではなく、何かを達成してきた子供として、暖かく誇りをもって迎えてくれるからです。ですので、彼らをストリートからコミュニティに戻すためには、受賞の品はとても大切なのです。

ウムトンボは、土日には地元の子供たちにもサーフィンを教えるようになりました。中にはＨＩＶに感染した子供もいますが、みんなと一緒にサーフィンをやり、彼らを決して孤立させないようにしています。

最後にとても嬉しいニュースを皆さんとシェアさせていただきます。今年４月にパナマでサーフィン・ワールド・カップ(Under 16)が開催されますが、厳しい家庭環境の中でサーフィンをずっと続けてきた14歳のシモ君（写真：左）が、補欠ではありますが、黒人で初めての「サーフィン南アフリカ代表チームUnder 16」に選ばれたのです。これはすばらしい快挙で、本当に嬉しいです。

---

## 新会員自己紹介　　横山 礼

私が TAAA の活動に参加させていただいたきっかけは、THAN 球プロジェクト代表の森直之さんの TAAA での活動を耳にしたからです。 森さんは“サッカーを通じて南アの子どもたちを笑顔に”を胸に活動をしています。　その森さんの背中を見て、自分にも何かできることはないかと思い TAAA に参加させていただきました。

TAAA スタッフの方々は南アについての知識が豊富で多方面からそれぞれの問題意識を持っていられるので、勉強になることばかりです。　南アの子どもたちのために、今の自分にできることをする。私は南アに行き、この目で現状を知り、その先に見える課題を少しでも多く解決していきたいです。

また、人との出会いを大切に、活動に参加させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

TAAA が取り組んでいる学校菜園の活動に参加する中学１年生の女の子、ザネレさんが書いた詩です。

## 世界をいやして

**ザネレ・ムゾベ**（インプレメロ中学１年生） 津山直子 訳

わたしは土。地球を包み、あなたが歩む下にある。
わたしが消滅してしまう前に、わたしの話を聞いてほしいの。

わたしの体は、地球を包む大きなあたたかい毛布のようなもの。
ざらざらなものからなめらかなものまで、いろいろな生地がある。
茶色、黄色、赤や黒の混ざったさまざまな色合いを想像してもらうと、
わたしのことが少しわかってもらえるかしら。

わたしは種や植物の家。
植物は、わたしを通して、水や栄養を得ている。
わたしの中のとても小さな微生物が、わたしを肥沃にし、
腐植土をつくり、空気や水のための小道をつくる。

ザネレ・ムゾベさんと平林薫

地球上のすべての人は、毎日食べるのに十分な食料が必要だ。
だからわたしがはたらく。食料はわたしに依っている。
人々はまた、薬やコーヒー、お茶、ぶどう、りんごを作る樹木を育てる。

あなたはわたしが必要。わたしは、世話してくれるあなたが必要。
わたしができるまでには長い時間が必要だけれど、瞬く間にこわせてしまう。
どうかわたしを助けて。
そうすれば、健康な野菜や果物をあなたのために作ることができる。

地球上にはたくさんの人が住み、人口は増え続けている。
土壌流出で、わたしの多くが流されてしまった。
でも、すべてが流される前に、わたしを守る時間はまだある。
ゆっくりだけど確かにわたしを強くするさまざまな農法を使ってほしい。

**Let's heal the world**

By Zanele Mzobe Grade 7 Impumelelo Senior Primary

I am the soil. I am the top covering of the earth and under every step you take. Will you please listen to my story before I completely disappear?

My body is like a big warm blanket wrapped around the earth. I have many different textures from gritty to silken soft. Imagine all the different shades of brown, yellow, red and black and you will know a part of me.

I am a home for seeds and plants. Plants get their water and nutrients through me. In my layers there are tiny organisms which are necessary for my fertility, breaking down humus and making pathways for air and water.

Every person on earth needs enough food to eat every day. So I do. Food is dependent on me. Besides food, people also grow plants and trees that produce medicines, coffee, tea, sugar, grapes and apples.

You need me. I need you to look after me. I take lots of time to make and you can destroy me in a minute. Please help me so that I can produce healthy vegetables and fruits for you.

There are many people on the earth and the population is growing. Much of me have been lost by erosion. Yet there is still time to secure me before I get swept away completely. You could use different techniques of farming which strengthen me slowly and surely.

# カンボジアの子供たちとのサッカー交流

森　直之

　私たちは、11月1日から8日までアンコールワット等で有名なカンボジアのシェムリアップでサッカー交流を行いました。メンバーは、多摩大学・尚美大学・大阪大学・神戸大学の学生です。
カンボジアは、1975年から始まったポルポト政権の虐殺により200万人以上（人口の1/4）が殺されたといわれています。その背景には、ポルポトがカンボジアを共産主義社会に切り替えるために、自分の思想にそぐわない知識人（教師・将校・僧侶・役人・外国語ができる者）や反抗するものを容赦なく殺しました。現在、虐殺の影響でカンボジアの人口ピラミッドを見ると30代以上の人口が極端に少なくなっています。また、教師の数も足りなくて子供たちに満足な教育を受けさせられていないのが現状です。その為、カンボジアの人間開発率（＊）は 0.598（日本 0.96%南ア0.683%）です。これは、世界177か国中131位で低い水準にあります。また、ポルポト政権の内戦の跡はいたるところで見ることができます。その中で1番大きな被害は地雷です。現在、500万個の地雷が埋まれているといわれています。そんな、カンボジアに僕たちはサッカー交流を行いました。今回のサッカー交流の目的は、サッカー教室と親善試合で笑顔になってもらうことです。　　＊人間開発指数は平均余命、識字率、就学率、国内総生産を基に決まる

－サッカー教室－

　2日間かけて現地の小学校で行われたサッカー教室は、午前中は小学生・午後は中高生の計200名の子供とサッカーを行いました！！サッカーボールは、TAAA から頂いたサッカーボールや THAN 球プロジェクトで集まったサッカーボールを使ってサッカーを行いました！使ったサッカーボールは、子供たちにプレゼントしました。子供たちは、みんなサンダルを脱いで裸足でサッカーを行っていました。子供たちにとって、サッカーシューズを買うのが高いので裸足でやることは普通のことらしいです。練習メニューは、子供たちがサッカーを好きになってもらえるように考えました。馬跳び・ドリブル・パス・シュート練習そしてみんなが大好きな紅白戦を行いました。

　子供たちは、ちゃんとした練習を行ったことがなかったらしくてみんな興味津々でやってくれました！子供たちのほとんどがサッカーのルールを把握していないので、すぐに手でボールを触ったりスローインを片手で投げたりと大変でした。この背景には、サッカーをやりたい子供たちはたくさんいるが行なえる環境（指導者・用品）が少ないということがあります。今後、サッカー支援していく課題でもあると思いました。最後に、みんなで記念撮影を行いました。

－親善試合－

　2日間かけて、現地のホテルリーグの優勝チームと準優勝チームとの親善試合を行いました。
ホテルリーグの発足は、近年観光地化が進むシェムリアップにホテルがたくさん建った為に大量の従業員が雇われて、休日やオフシーズンにやることがなくなった従業員が犯罪や麻薬に手を染める数が多くなりました。それを解消するためにサッカーリーグを行い従業員が健全になってもらうためにホテルリーグが建てられたのです。

　試合会場は、シェムリアップ中心地から車で20分の距離にある天然芝のグランドです。天然芝とは言っても、手入れされていないので芝生の長さはバラバラでありグランドは凸凹になっています。また、日本のグランドと違って誰でもグランド内に入れるので牛や犬も入ってきます。そして、当然のように糞もしていきます。カンボジアの選手は、別に糞などあっても気にしないでプレーをしているそうです！しかし、僕たちはそんな環境でプレー出来ないので試合前に糞の駆除を行いました。

　そんな、アウェイの洗礼がありスタートした親善試合は2戦とも勝つことが出来ました！！試合中は、みんな本気でした！！日本・カンボジアのプライドがぶっつかっていました！！試合後は、敵・味方関係なく全員で記念撮影をして終わりました。写真で分かる通り、みんな笑顔でした。1つのサッカーボールが共通言語として生まれた瞬間でした。

　最後に、カンボジアの FIFA ランキングは、170位（日本19位）です。カンボジアには、サッカー専門チャンネルがあるぐらいサッカー人気は高いものの、サッカー環境や選手の質など考えるとカンボジアはサッカー後進国です。今後も、みんなで協力しながらカンボジアのスポーツ教育を考えないといけないと感じました。そして、このサッカー交流会を1回だけのものにしないで継続することが大切だと思います。

# 石巻より

## 佐藤 誠

震災以来、『絆』ということが語られるようになりました。多くの支援やお心遣いを寄せてくれた方がいたこと、それを受けた皆が助け合ったことによるものと思います。まずは感謝を申し述べます。あの日、『日本沈没』という言葉が脳裏をよぎり、一瞬我を忘れました。揺れの中を逃げ惑う子供達をとどめ、漸く気を取り戻しました。思えば、人は他者との関係の中で生き生かされているのであり、私もまた、自失の状態から彼女たちによって救われたといえます。

さて、避難所においては、食料や水、必要な物資を調達する必要がありました。ラジオによってある程度の情報は入ってきており、絶望的な状況でないことは認識していました。救援物資が届き始めるまで数日、それがなんとか行き渡る量になるまで数日。それらの救援物資は避難所にのみ届いたため、各戸に支援を待つ方に『配給』という形で届くまでには、さらに一週間程度の時間がかかったと記憶しています。自治体が大まかにでも状況をつかめたのは、おそらく７月末頃でしたでしょう。町内会ごとに配給物資の数を把握し、その数が固定してきたのがその頃でした。できることをするだけで精一杯という中で、多くの人にとっては待つことしかできない時間。今にして思えば、避難所にいた子供達にとって、その時間はどのようなものだったのでしょう。我々が物資の調達に奔走する中で、子供達はどのように過ごしていたのか、私は考えたこともありませんでした。ただ、必要とされる行動に従っていただけだったのです。

子供達への支援のお話は、全く抜け落ちていたことであり、それだけに必要でありました。自治体もボランティアセンターも、どこに、誰に、どんな支援が必要なのか掴みかねており、従って、続々と送られる物資の受け入れを、一時中断せざるを得ないというのが実状でした。独自の活動を行うボランティア団体でも状況はほぼ同じであったと思います。寄せられた絵本などが渡し先のないまま山積されていました。個々に連絡をとり、物資を直接届けることができたのは幸いでした。二度、同行させていただきましたが、実際に必要とする方に必要な支援をするというのは簡単ではないと知らされました。

震災から年を越し、現状をお伝えします。何が必要で何をしなくてはならないか、これははっきりとしてきています。にもかかわらず復興に足踏みするかのような現実があるのもまた確かです。それは心情であり、理屈ではない、土地や家への思い入れです。それが悪いというのではありません。そういった葛藤を乗り切るには時間も必要となるでしょう。現実と心の時間的差異、そこに、どうしても画一的になりがちな行政との対立も生まれています。いささか気になることとして、被災地だからという甘えが一部に生じていることは、危惧すべきことのように思えます。家や財産、命までも、実に多くのものを失いましたが、支援や『絆』によって得たものも、また多くあります。被災地にいる一人として、支援に感謝しつつも、精神的に立ち直りたいものだと強く願うものであります。　（2012. 1. 11）

---

震災発生後、間髪をいれず多くの NPO が活動を開始した。当 TAAA の会員も多くが個人でそれらの活動に参加し始めたが当会でも出来る事をしようと絵本や玩具を子供たちに直接行き渡るべく保育所、幼稚園、個人宅の支援をされている現地のボランティアとリンクして「本は友達」キャンペーンを展開した。当初は宅急便で送っていたが相当量の物資が集積したのでワンボックスバンで２回に亘って輸送した。徹夜輸送のぼやけた視界に飛び込んできた被災地の惨状に参加者は言葉を失い泣き出す者も・・。一方、物資を受け取る被災者の方々が口々に発するのは我々に対する感謝とねぎらいの言葉。自ら被災者でありながら同郷の方々を支えるボランテイアの後ろ姿に却って我々が勇気づけられる一幕も。現地の人々が異口同音に訴えるのは末長いコンタクト。物資以上に結びつき「絆」が求められている。　（TAAA　浅見克則）

## ◆　主な活動（2011 年 9 月 16 日～2012 年 1 月 15 日）　　下線は南アにおける活動

***9/16　ドゥドゥドゥ地域学校訪問　平林***
9/16～18 会報用語解説執筆作業　　鯨井幸一
9/18～20 住所ラベル更新・印刷　　西村裕子
9/20 本等 348 個南アへ送付　北爪健一　野田千香子
9/20　石巻市蛇田保育園へ宅急便送る　高野千恵美
9/20～10/2 会報 57 号編集・校正　野田　　西村
9/20～30 報告会 Web リリース　　丸岡晶
***9/21 ダーバン日本食レストランで収穫を販売 平林***
***9/23 日本へ一時帰国　　平林薫***
9/25 ミーティング　　平林　　野田
9/26～10/4 報告会配布資料・アンケート作成　鯨井
9/27 報告会マスコミへ案内通知　　野田
10/1～7 会報 57 号郵送準備　　高野
10/3～8 南ア情報～メディア拾い読み～１号作成 鯨井
10/9 会報郵送　西村　高野千恵美　浅見克則　野田
10/10 TAAA 活動報告会戸塚地域センターにて　講師：平林（TAAA 南ア代表）/佐藤千鶴子（JETRO）
10/11 JICA 会議　　久我　　平林
10/14 ミーティング　　久我　平林　津山
10/15　石巻市蛇田保育園へ宅急便送る　　高野
***10/16 南ア TAAA 代表、南アへ戻る　　平林***
10/17～27 ボランティア貯金、「ひろしま・祈りの石」助成金申請書の準備・提出　　久我
10/20 ミーティング　　久我　　野田
10/21 サッカーボールをカンボジアへ　森直之　野田　西口成峰
***10/21 近鉄エクスプレス水野氏と会合　　平林***
***10/21～27 教師研修準備・研修会実施　　平林***
***10/26　ヒバディーン地域学校訪問　　平林***
***10/27 教師研修会開催（プンガシェ）　平林***
***10/28　ドゥドゥドゥ地域学校訪問　平林***
10/31　　HP 更新　　数回　　久我
***10/31 ヒバディーン地域学校訪問　平林***
***11/1 教師研修会開催（ドゥドゥドゥ）　平林***
11/1　銀行口座を HP に掲載　久我
11 月～１月　報告会準備、Ｗｅｂ広報など　　丸岡
11/2 清泉インターナショナル本引き取り　浅見　久我
***11/2～3 プンガシェ学校と教育センター訪問　　平林***
***11/4・7～8 ヒバディーン地域学校訪問　平林***
11/9 習志野市大久保図書館と TAAA 写真展示会の件での確認作業、HP 掲載　　久我
***11/9～10 ドゥドゥドゥ地域学校訪問　平林***
***11/11 ヒバディーン地域学校訪問　　平林***
11/12～13 アフリカンフェスタ出展　浅見　久我　丸岡　中野敦子　高野　森　石黒　山下八千穂
11/15 ***TAAA 事務所にて JICA スタッフ会議　　平林***
11/15 シスル南ア国民議会議長の来日歓迎会　久我
***11/16 プロジェクト車両点検　　平林***
***11/17　プンガシェ地域学校訪問　　平林***
***11/21 ドゥドゥドゥ地域学校訪問　　平林***
11/20　パブリックリソースに活動報告提出　久我
11/21～26 南ア情報～メディア拾い読み２号作成 鯨井
11/21　ボランティア貯金への回答提出　　久我
11/25 石巻市佐藤誠さんと話し合い　　久我
***11/25 ダーバンにて移動図書館バス点検　平林***
11/27 本の梱包作業と講座/講師/大友深雪　　北爪　野田　西村　浅見　森　横山礼　鯨井　久我　牧野
11/28　中近東アフリカ婦人の会　バザー参加　久我
***11/28～30 プンガシェ/ﾄﾞｩﾄﾞｩﾄﾞｩ地域学校訪問　平林***
***12/1～2　ヒバディーン地域学校訪問　　平林***
12/3 ボランティア貯金講演会等助成金申請書　久我
***12/4　ヒバディーン・コミュニティー菜園訪問　平林***
***12/5～6 移動図書館バス修理　平林***
***12/7 ムタルメ小ガーデニングクラブメンバーの農場視察訪問　　平林***
12/7 ボランティア貯金からの質問の回答提出　久我
***12/8 ヒバディーン地域学校訪問　　平林***
***12/9　日本食レストランで収穫を販売　　平林***
***12/10～12　ダーバンのビーチにてサーフィンコンテスト（シモ君サポート）***
12/11 作業と忘年会 北爪　久我　野田　鯨井　丸岡　森　横山　茂住　浅見　幸村信明　浦和学院高校より手島亜寿斗　林大輔　飯塚紅　駒村安衣理
***12/13 プンガシェ地域コミュニティー菜園訪問　平林***
***12/16 在南ア日本大使館領事野田氏と会合　　平林***
12/16 JICA 経理処理説明会・懇親会に出席　久我
12/18 AJF 活動報告・パーティーに出席　久我　津山
12/19　石巻市佐々木智恵さんと話し合う　　久我
12/20 パブリックリソースに活動報告提出　　久我
12/20　HP 年譜変更　　久我
***12/21 ヒバディーン地域学校訪問　平林***
***12/27　日本に一時帰国　　平林***
12/26～1/6 帰国報告会配布資料作成作業　鯨井
12/28　ミーティング　　久我　　野田
1/5　ミーティング　　平林　　久我
1/6　佐々木智恵さんへ宅急便送る　　高野
1/8 TAAA 報告会・懇親会 浦和にて　講師 平林　サンディーレ・ムカディ　津山直子
1/10～　会報 58 号郵送などの準備　　高野
1/10 ボランティア貯金に報告会の報告書を提出　久我
1/13　ひろしま・祈りの石　第３四半期報告書提出
1/13　TAAA 報告会のレポート作成、HP に掲載　久我
1/13 ボランティ貯金から監査受ける　　野田
1/15 ボランティア貯金への回答　久我　　平林